

開 講 日

池袋本校 7/27(月)

科 目

択一式全科目

☆単体でのお申込はできません。

回 数

全 55 回

対 象 者

- 今までの学習法に行き詰まりを感じている方
- インプット又はアウトプット学習の偏りがある方
- コンパクトで受験に最低限必要な論点が凝縮されているテキストをお探しの方

使 用 教 材

- オリジナルテキスト [受講料込]
 - OnlineStudy 上への問題冊子・解説冊子、レジュメ Web アップはございません。
- [板書]の取扱い
 - 各自 Web 上にて閲覧・プリントアウトでご利用いただけます。
 - 発送対応いたしません。

タイムスケジュール

前半講義
(85分)

休憩
10分

後半講義
(85分)

担 当 講 師



根本 正次
LEO専任講師

「アウトプット→インプット」をバランスよく行って、
効率よく、記憶を定着させていこう

「一生懸命勉強しているはずなのに点数が伸びない」という受験生の中には、知らず知らずのうちに「インプットだけ」「アウトプットだけ」と偏った学習方法を取っている方が数多く見受けられます。ぜひ本講座のインプット・アウトプット一体型のテキストを使って、バランスの良い学習をしていきましょう。

POINT 1 インプットとアウトプットを一挙にできる
画期的なテキストです

本講座のテキストは、見開きで
(左ページ)「〇×式の肢別問題」
(右ページ)「まとめ図表」
というレイアウトにしています。

これにより、

- ① 〇×問題で間違えたものを、まとめ図表でインプットできる
- ② まとめ図表で覚えたものを、〇×問題で確認することができます。

このテキストをこなすことによって、受験において必要な知識のインプット・アウトプットを、この一冊で完了できるでしょう。

POINT 2 こだわったのは学習の効率化です

司法書士試験は量との戦いになるため、必然的に学習の効率化が求められます。ただいたずらに「テキストを読むだけ」「問題を解くだけ」では非効率的ですので、一定の工夫が必要です。

本講座は、テキスト・講義・復習のすべてに効率化を意識したものにしています。具体的には以下の3点です。

- ① インプットとアウトプットが一体化
 - 講義受講後に、どの問題を解けば良いか悩まずに済む
 - 問題演習をすることが、講義の復習になる
- ② アウトプットは「講師が選んだ必須過去問」「答練問題の抜粋」「予想問題」に厳選
 - 一つの教材に集中して学習できる
- ③ インプットは論点ベースに、図表を中心に掲載
 - 無駄を省いた学習ができる
 - 問題に出ていないところも、図表で確認できるため派生論点が掴みやすい

POINT 3 もっとこだわったのは、記憶の定着化です

司法書士試験では、本試験当日に多くの知識を記憶していることが求められます。そのため、普段の学習から理解することはもちろん、それ以上に記憶することを強く意識すべきです。

本講座は、記憶を定着させるためにも、色々な仕掛けを施しています。

- ① 講義内で問題を解く、その後、その部分の説明を受ける
 - 自分のできないところがわかるから、今記憶すべきところが明確になる
- ② インプットとアウトプットが一体化している
 - 「問題を解いて」、「講義で説明を聴いて」、「復習時に問題を解く」というプロセスを踏むことによって、1つの知識に3回当たることができる
- ③ 結論の説明をする講義でなく、その考え方・理由付けにこだわった講義
 - 印象深く知識を入れることができる

★自分のペースで学習できる！マイナー科目

受験生によって理解・記憶の力に大きな差が開くマイナー科目は、スタジオ収録した講義を随時配信します。

自信のある科目は「問題を解いてから講義を聴く」、不安な科目は「講義を聴いてから問題を解く」と自分の実力にあった学習が可能になります。

配信開始日

7/10(金)
受講期限 / 配信期限 2027/7/10(土)

科目

不動産登記法・商業登記法
☆単体でのお申込はできません。

回数

全 12回

対象者

- 記述の力を維持し続けたい方
- 記述対策を何から始めるべきか悩んでいる方
- いきなり答練の難しい問題に取り組むのには、気遅れする方

使用教材

- オリジナルテキスト〔受講料込〕
☆[2026年合格目標：精撰答練〔頻出論点記述編〕・精撰答練〔実力養成編〕]の内容と重複する部分がございます。予めご了承の上でお申込みいただきますようお願いいたします。
- ◎OnlineStudy 上への問題冊子・解説冊子、レジュメ Web アップはございません。
- [板書]の取扱い
◎各自 Web 上で閲覧・プリントアウトでご利用いただけます。
- ◎発送対応いたしません。

タイムスケジュール

前半講義
(85分)

休憩
10分

後半講義
(85分)

担当講師



根本 正次
LEC専任講師

解き方を学び、実践しながら、
記述学習の核を作ろう

本講座では、記述の解き方を学習し、問題を使った実践演習を通してそれを身につけていきます。

講義では、解き方はもちろんのこと、実体法の知識の確認、記述テクニック、ひな形のポイントも説明していきます。

この講座をこなすことによって、「解き方」「知識」「ひな形力」が固まっていき、年明け以降の記述学習の核を作ることができるでしょう。

POINT 1 無駄のない合理的な記述の解き方を
学ぶことができる

記述問題は、たくさんの情報を一気に捌くことが要求されます。そして、時間制約がある以上、無駄な作業をすることはできません。

この講座では、記述の解き方を、実際の問題を使って説明します。

「どういう順番で事実関係を読み」「どういった情報を後回しにするか」「メモの仕方」など、実際に講師が行っている解き方を画面上で紹介します。

これにより、無駄のない合理的な記述の解き方を学ぶことができます。

POINT 2 各12問ずつ解いて、解き方を身につける

本講座では、不動産登記法12問、商業登記法12問を解いていきます。1回目で学んだ解き方を、11回かけて実践していくため、実践を通じて解き方を身につけることができます。

ちなみに、本講座で使用する問題は奇抜なもの、細かい知識が必要になるものではなく、「オーソドックスな形式」の「合格者であれば、絶対に知っている知識」を問う問題を使用しているため、繰り返し学習にびったりなものになっています(過去に実施された『精撰答練〔頻出論点記述編〕・精撰答練〔実力養成編〕』の問題を主に使用しています)。

POINT 3 ひな形対策も万全『ひな形テンプレート集』

申請すべき登記が正しく判断できても、申請書の表現や添付書類にミスがあれば得点は伸びません。

本講座では、解法だけでなく“申請書を書く力”そのものを鍛えるために、専用の「ひな形テンプレート集」を用いて表現力を強化します。

〈ひな形テンプレート集のポイント〉

■ 不動産登記法
物権変動のイメージ図・申請書に加え、「条件が変わると申請書がどう変わるか」を多数のバリエーションで整理。実戦で迷わない“書き分け力”を身につけられます。

■ 商業登記法
申請書だけでなく、場面ごとの必要添付書類をまとめた図、その登記で必ず確認すべき「無効事由チェックポイント」を掲載し、判断の軸が明確になります。

講座の問題演習と併用することで、ひな形の理解・表現・書き分けが一体的に強化され、“得点につながる申請書”を書く力が身につきます。